

令和元年度の管理運営状況（若洲ヨット訓練所施設）

指定管理者：若洲シーサイドパークグループ

大項目	中項目	確認項目	特にアピールしたい点(具体的に)、改善点等
管理状況	適切な管理の履行	設備の点検	<p>利用者の安全・安心を確保するため、施設等の日常巡回点検を着実に実施し、不具合箇所を早期発見し直営でできるものは迅速に対応を行った。(不具合対応件数87件中67件を直営作業で実施)</p> <p>施設補修では、お客様に安心かつ清潔な環境を提供するため、水垢を除去する薬剤を使用し、各トイレの尿石除去を徹底したことで利用者に施設を気持ちよく使用していただいた。また、安全性の確保のため多くの所要時間を要するヨット・レスキュー艇昇降用スロープの清掃作業等も毎週定期的にも実施するとともに、施設の景観維持のため、枯枝撤去・剪定・実生木の伐採も引き続き適宜実施した。</p> <p>近年、設備の老朽化が進み故障等が多く緊急補修や不具合への対応も行ってきた。予算の効率的な執行はもとより、日々のヨットの小規模な修理やメンテナンス、樹木管理、スロープ清掃は、スタッフ直営で作業を実施し、施設の適切な管理に努めた。</p> <p>年度末には、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から利用者に対してはマスク着用、手洗い・うがいの励行をお願いする取り組みを行うとともに感染状況によりヨット教室や支援活動事業等の中止を行い利用者の安全確保を第一にした管理を行った。</p>
	安全性の確保	安全性の確保	<p>本年度も引き続き様々な安全対策を継続的に実施し、1年間を通じて無事故を実現した。</p> <p>ヨット教室の安全・安心確保にむけた取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> ①経験豊富なインストラクターの配置（日本セーリング連盟認定・バッジテスト中級以上） ②教室開催前のインストラクター全員でのミーティングによる情報共有の徹底（当日の参加者の技量に合わせたスケジュール・当日の気象及び海象情報等の確認等） ③教室開催中の無線による状況確認及び情報交換 ④リアルタイムでの気象・海象チェック ⑤監視カメラによるヨットの動向及び周辺海域の監視 ⑥受講者数に応じたレスキューボートの配置 ⑦教室で使用する艇の事前・事後点検の徹底 ⑧定期的なヨット・レスキュー艇昇降用スロープの藻の除去清掃作業
	安全性の確保	防災への配慮・緊急時対策	<p>従来から引き続き地震等の大規模災害への適切な対応にむけて、現場独自の防災訓練の他、東京都の一時滞在施設としての訓練や本社と連携した大規模地震が発生した際の初動対応訓練など、積極的な防災訓練の実施を通じて災害時における危機管理能力の向上と防災への意識の拡充を図った。</p> <p>R2年2月19日 ①安否確認システムを活用した本社との大規模地震初動対応訓練の実施 R2年2月26日 ②若洲地区【ゴルフ・キャンプ・若洲協議会との連携】の総合防災訓練（避難誘導訓練やAEDの使用方法等実践的な訓練の実施） ③一時滞在施設としての受入訓練（帰宅困難者の対応訓練やMCA無線、緊急電話等の使用訓練）</p>
事業効果	スポーツ振興事業の実施状況		<p>事業計画に基づき、セーリング普及にむけた若洲ヨット祭りや障がい者体験乗船会、ジュニア育成にむけたマンスリーレガッタ等の事業を実施した。ヨット祭のコンテンツである障がい者体験乗船会を充実させるため、日本セーリング連盟・東京都障害者セーリング連盟・日本視覚障害者セーリング協会の3団体と連携・強化を図り、開催回数を年間2回から3回へ増やし計画した。新型コロナウイルスの影響から実績は2回となったが、より多くの参加者の受け入れに努めた。</p> <p>今後はハンザクラス交流レガッタを開催し、障がい者とセーリング初心者の健常者が競技会を通じて交流する機会作りに努める。</p> <p>【障がい者体験乗船会 参加者数】（参考） H30年度・・・6月、9月開催 71名（参加者 22名 スタッフ 49名） H31年度・・・8月、9月開催 155名（参加者 29名 スタッフ126名）</p>
	利用者の満足度		<p>利用者向けアンケートでの結果では、施設の総合満足度（97%）、受付窓口の対応（96%）、ヨット教室の内容（96%）等の主要項目で、「大変よい」若しくは「よい」とお答えいただいたお客様の割合がいずれも9割を超え、特にインストラクターの対応では100%と特に高い評価をいただいた。今後も引き続き高評価が得られるよう教室運営を行っていく。</p> <p>また、施設全体で更なる満足度向上を目的に引き続き「ウェルカムガーデンの設置」・「冬場のコーヒー無料サービス」「夏場の熱中症対策としての麦茶・塩飴の無料配布」「シャンプー(アメニティ)の提供」「アンケート結果の公表」等を行い、お客様が快適に過ごせる環境作りも行った。</p>
	事業の取組	利用促進への取組	<p>本年度も事業計画に基づき、「ヨット体験乗船会」、「Tokyo Junior Youth」、「高等学校ヨット部活動支援事業」等の普及啓発及び育成事業を行った。運営にあたっては、経験豊富なスタッフにより、年間を通じて育成指導を行い、本年度もこの育成事業から、多くの生徒が選手権等へ出場した。</p> <p>【入賞実績】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 東京港レガッタ 61名参加 (ジュニア男子2位、女子3位及び一般女子1位、男子4位 計4名) ② 夢の島レガッタ(小中学生対象) 22名参加 (小学生の部 男子3位、中学生の部 女子1位 計2名) <p>また、一昨年度から継続して不登校児童を支援するセーリング事業を実施した。</p> <p>【不登校児童セーリング支援事業】 開催月・・・7月・8月・9月 参加数・・・48名</p>
	その他		<p>神奈川県より東京2020大会会場となる湘南港からのヨット受入れの要望があった。移設にあたっては、神奈川県と事前の打合せや移設に関する協定を締結するなど密に調整を図ったことで、令和2年1月に円滑にヨットの移設を行うことができた。</p> <p>対象艇数：69艇</p>

〔作成上の注意事項〕

- ・挙げていただく項目数に制限はありませんが、A4で1枚に収まるようご作成ください。
- ・ご提出いただいたプレゼンテーション資料は、評価委員会の会議資料として、後日、オリンピック・パラリンピック準備局のHPに掲載します。